

■年間スケジュール

11月	次年度募集要項発表
1月	募集(約1か月)
~4月頃	第一次選考
~6月頃	第二次選考(現地調査、プレゼン、質疑)
9月頃	選考結果公表
11月	表彰式

■参考事例

事例1 技術開発により大幅な生産性の向上(工期短縮)を図った工事

施工プロセスの視点 **生産性向上(工程短縮)** **環境の維持(CO₂排出量削減)**

急速施工技術として実績のある〇〇工法について打設後、〇時間で型枠が外される状況でも所定の耐久性を確保できることを確認し、同工法の採用を決定、大幅な工期短縮を実現した。

事例2 徹底的な無人化施工技術の活用により、工事現場の安全確保を図った工事

施工プロセスの視点 **生産性向上(機械化・ロボット化、i-Construction)**
特別な事業マネジメント **復興支援**

人が立ち入ることができない条件の工事現場において、調査・設計・施工・管理のすべての段階において **i-Constructionを取り入れ**、安全かつ迅速に工事を進めるとともに、受発注者が一体となった **事業マネジメント体制を構築**することで、早期完成を実現した。

事例3 狭隘で制約が多い小規模現場を工夫により問題解決を図った工事

施工プロセスの視点 **生産性向上(工程短縮)** **特別な安全対策(第三者、施工者)**
小規模工事

他工事近接現場で、**人力による運搬に頼らざるを得ない等の小規模ながら施工条件に制約が多く**、工期遵守や安全性向上のために、**建設機械の改良、張りブロックの小型化の提案**などにより、これらの課題を解決した。

●本件に関するお問い合わせ



日建連表彰「土木賞」に関する案内(募集要項・応募様式を含む)
<https://www.nikkenren.com/doboku/prize/>



事務局(土木第一部)
〒104-0032
東京都中央区八丁堀2-5-1
東京建設会館内
電話 03-3552-3201
FAX 03-3552-3206

日建連が土木分野の表彰を 2020年から始めます

日建連表彰 土木賞

施工プロセスを重視した施工者団体の賞



新たな表彰制度を設けた背景

日建連では、1960年に創設した建築分野のBCS賞の表彰をしています。
2011年に新・日建連の発足以降、土木・建築の両分野に活動の場が広がっていることから、活動領域を踏まえた新しい表彰制度を設けることとしました。



日建連表彰「土木賞」の概要

- ①募集の前年末までに概ね竣工した土木分野の**プロジェクト・構造物**を対象にします。
- ②幅広い関係者の応募が可能です。
日建連会員以外の建設会社が施工した案件も対象になります。
- ③施設管理者(発注者を含む)、設計者、施工者(これを支える専門工事業者等を含む)など**多様な関係者**を表彰対象者にします。
- ④施工者団体が設ける賞として、事業企画から維持管理までの総合評価に加え、**施工プロセスの視点**(施工プロセスの改善、良質な社会資本の効率的創出、土木技術の発展・伝承など)を重視します。
- ⑤固有の課題への取組みで特に優れているものを**特別賞**として表彰します。
- ⑥特別賞を含め10件内外を表彰します。
- ⑦受賞者には、表彰状、表彰パネル、賞牌を贈呈します。
- ⑧選考にあたっては、学識者、行政、建設コンサルタント、建設施工機械メーカー、メディア、施工者から構成される選考委員会で多面的な評価を行います。



日建連表彰「土木賞」で期待される効果

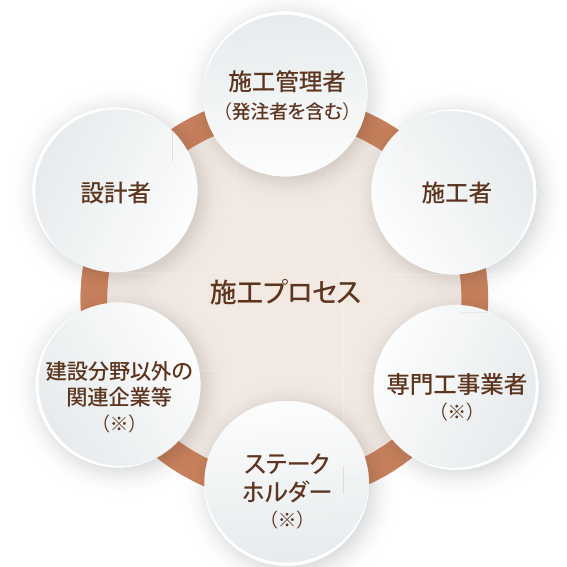
毎年、優良なプロジェクト・構造物を表彰し、広く内外に紹介することにより、土木に係る事業企画の質及び計画・設計、施工、環境、維持管理、その他土木技術の進歩向上を図ることができます。
その結果、良好な土木資産を創出し、わが国の国民生活と産業活動の基盤の充実に寄与することが見込めます。(日建連の目的(定款3条)の達成)



施工プロセスに貢献した施工者団体による賞の視点

多様な関係者

施設管理者(発注者等を含む)、設計者、施工者とこれを支える専門工事業者、建設分野以外の関連企業や研究者、ステークホルダーの多様な関係者の相互の協力関係を評価対象とします。



※施設管理者(発注者等を含む)、設計者、施工者を支える関係者

施工プロセスの視点

日建連表彰「土木賞」の選考は、プロジェクト・構造物の事業企画、計画・設計、施工、環境及び維持管理等に関する総合評価に基づいて行うものとします。この際、施工プロセスの視点(施工プロセスの改善、良質な社会資本の効率的創出、土木技術の発展・伝承など)を重視します。

施工プロセスの改善	良質な社会資本の効率的創出	土木技術の発展・伝承
<ul style="list-style-type: none"> ●コストの低減 <ul style="list-style-type: none"> ✓建設費の低減 ✓ライフサイクルコストの低減 ✓補償費などの抑制 ●環境の維持 <ul style="list-style-type: none"> ✓建設工事に伴う公害の防止(騒音・振動・水質汚濁・大気汚染等) ✓施工中の景観の保全 ✓作業環境の改善 ✓自然環境の保全 ✓CO₂排出量削減 ●交通の確保 <ul style="list-style-type: none"> ✓規制時間の短縮 ✓交通ネットワークの確保 ●特別な安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ✓第三者の安全確保 ✓施工者の安全確保 ●省資源又はリサイクル <ul style="list-style-type: none"> ✓エネルギー消費量の削減 ✓建設副産物の発生量削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●構造物の性能・機能の向上 <ul style="list-style-type: none"> ✓耐久性の向上 ✓強度の向上 ✓美観の向上 ✓供用性の向上 ●安全・安心の向上 ●生産性向上 <ul style="list-style-type: none"> ✓工程短縮 ✓限定された期間内での確実な施工 ✓情報共有システムの活用 ✓情報化施工 ✓プレキャスト化 ✓機械化・ロボット化 ✓省人化 ✓i-Construction 	<ul style="list-style-type: none"> ●技術伝承の取り組み、育成 ●建設業を取り巻く他産業との関係強化 ●新しい建設システム ●特別な事業マネジメント
		その他
		<ul style="list-style-type: none"> ●建設業のイメージアップ活動 ●社会貢献活動 ●復興支援 ●特別な地元対策 etc